



# 2021年 柑橘類防除基準



## JAありだ

有田振興局農業水産振興課 監修  
2020年11月作成

### ●基本的防除

主な管理作業	時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 及 び 濃 度		使 用 基 準		備 考	
					みかん	かんきつ		
<b>●酸性土壌の改善</b> 石灰の施用により土壌の酸性を矯正する。ナメクジは酸性土壌に発生が多い。 <b>●密植園の間伐</b> 密植園は病害虫の巣となるので間伐を実施する。スプリンクラー防除園では、薬剤のかかりやすい樹形にする。 <b>●防風樹の処理</b> 早めに行い通風、採光を良くする。または防風樹の代わりに防風ネットを設置するのもよい。 <b>●剪定枝の処理</b> 剪定枝や枯枝、かいはよう病罹病枝を園外に持ち出し処分する。 <b>●ナメクジカタツムリの忌避</b> 銅板を株元へ巻く。 <b>●除草の徹底</b> 雑草が多いと害虫が集まりやすくなるのでこまめに除草を行う。 <b>●枯枝の処理</b> 摘果時に見つけた枯枝は剪除する。 <b>●カミキリムシの捕殺</b> カミキリムシの幼虫・成虫を見つけたら捕殺する。 <b>●夏芽の処理</b> 夏芽はチャノキイロアザミウマの発生源となる。 <b>●排水対策</b> 褐色腐敗病対策として園内の通風・排水をはかり、多湿にしない。発病果実を直ちに園外に持ち出し処分する。 <b>●秋芽の処理</b> かいはよう病の越冬場所。常発園は必須。 <b>●果実の取扱い</b> 果実が腐敗しないよう、収穫・選果・貯蔵・出荷の際、ていねいに果実を取り扱う。	12月下旬 ～1月中旬	ミカンハダニ(越冬卵) ヤノネカイガラムシ	マシン油乳剤(95%) マシン油乳剤(97%)	45倍 60倍	冬期/- 12～1月/-		ミカンハダニは薬剤抵抗性の発達が著しいためマシン油乳剤は有効。カイガラムシ類多発園ではマシン油乳剤の散布は必ず行う。幹まで薬剤がかかるように丁寧に散布する。散布前後は暖かい日を選ぶ。	
	3月中下旬	ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ	マシン油乳剤(97%)	60～80倍	3月/-		冬季との2回散布は行わない。発芽前に散布する。ミカンハダニを対象とする場合は80倍。中晩柑類は収穫後に散布する。	
	新梢伸長期～ 開 花 初 期	シャクトリムシ類 コアオハナムグリ・ケシキスイ類	ロディー乳剤	2,000倍	7日/4回			散布の際ミツバチへの影響に注意する。アブラムシ類発生園では対象別防除欄参照。
	満開期～落弁期	灰色かび病・そうか病・黒点病	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	14日/3回			この剤を使用しない場合は各専用剤を散布する。
	5月下旬	黒 点 病	エムダイファー水和剤	600倍	60日/2回	90日/2回		ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。
		ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日/3回			ヤノネカイガラムシを対象とする場合は対象別防除欄参照。散布の際はミツバチへの影響に注意する。株元にも十分散布する。ゴマダラカミキリには一斉防除が効果的。
	6月中下旬	黒 点 病	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤	600倍 600倍	30日/4回	90日/4回		
		ミカンハダニ	マシン油乳剤(97%)	200倍	-/-			中晩柑類ではマシン油乳剤と有機剤との混用はしない。
	7月上旬中旬	ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	アドマイヤーフロアブル	3,000倍	14日/3回			株元にも十分散布する。ゴマダラカミキリには一斉防除が効果的。ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。
		黒 点 病	エムダイファー水和剤	600倍	60日/2回	90日/2回		ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。
	8月上旬	黒 点 病	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤	600倍 600倍	30日/4回	90日/4回		
		チャノキイロアザミウマ	キラップフロアブル	2,000倍	21日/2回			着色期以降及び施設栽培は葉害の恐れがあるので使用しない。マシン油乳剤との混用はしない。
8月下旬	黒 点 病	ジマンダイセン水和剤 または ペンコゼブ水和剤	600倍 600倍	30日/4回	90日/4回			
	チャノキイロアザミウマ カイガラムシ	対象別防除(殺虫剤)欄参照					発生に応じて散布する。	
9月上旬～ (着色期)	ミカンハダニ	ダニコングフロアブル	4,000倍	前日/1回			発生初期に防除を行う。	
	アザミウマ類・カメムシ類・ハマキムシ類	対象別防除(殺虫剤)欄参照					発生に応じて散布する。	
収 穫 前	貯 蔵 病 害	対象別防除(殺菌剤)欄参照					☆収穫前に必ず散布する。	

※ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZ、ペンコゼブ水和剤は同成分(マンゼブ)を含むので使用回数は合わせて4回までとする。※高温・過乾燥時、夕方での薬剤散布は葉害発生のおそれがあるのでさける。(特に乳剤・液剤)

### ●対象別防除(殺虫剤)

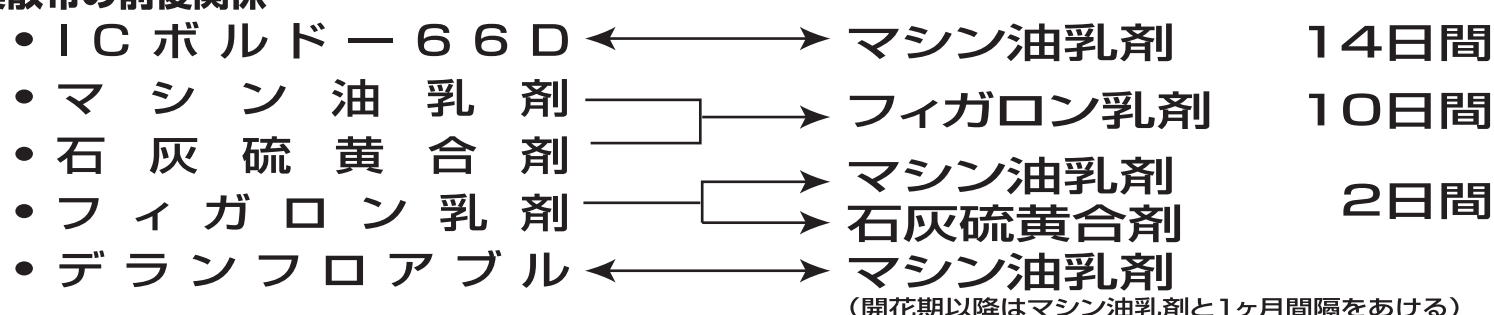
対 象	時 期	薬 剤 及 び 濃 度	使 用 基 準		備 考
			みかん	かんきつ	
ナメクジ類 カタツムリ類	発生時	マイキラーL	200倍	30日/3回	
		スラゴ	1～5g/m <sup>2</sup>	-/-	
		ナメクリン3	3kg/10a	30日/3回	
ハマキムシ類	発生時	エクシレルSE	5,000倍	前日/3回	
アブラムシ類 ミカンハモグリガ (エカキムシ)	4月～9月	モスピラン顆粒水溶剤	3,000倍	14日/3回	
		アドマイヤーフロアブル	4,000倍	14日/3回	
アザミウマ類	5月～10月	スピノエースフロアブル	6,000倍	7日/2回	
チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	5月～10月	ディアナWDG	10,000倍	前日/2回	
		コルト顆粒水和剤	3,000倍	前日/3回	目に入らないように注意する。
ミカンサビダニ チャノホコリダニ	5月～10月	サンマイト水和剤	3,000倍	3日/2回	
ミカンハダニ	発生時	コロマイト水和剤	2,000倍	7日/2回	
	8月下旬～	スターマイトフロアブル	3,000倍	7日/1回	
カイガラムシ類	5月下旬～	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	前日/1回	
		トランスフォームフロアブル	2,000倍	前日/3回	
ヤノネカイガラムシ (若齢幼虫)	6月中下旬 ・8月中旬～	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日/3回	
		スプラサイド乳剤40	1,500倍	14日/4回	90日/4回
サンホーゼカイガラムシ (若齢幼虫)	6月・8月上旬	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日/3回	
		スプラサイド乳剤40	1,500倍	14日/4回	90日/4回
サンホーゼカイガラムシ (若齢幼虫) イセリヤカイガラムシ (幼虫)	5月下旬～	アブロード水和剤	1,000倍	14日/3回	45日/3回
コナカイガラムシ類	6月上旬	アブロード水和剤	1,000倍	14日/3回	45日/3回
		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日/3回	
ツノロウムシ(幼虫) ルビーロウムシ(幼虫)	7月上旬	スプラサイド乳剤40	1,500倍	14日/4回	90日/4回
ゴマダラカミキリ	成虫発生時	アクセルフロアブル	2,000倍	7日/3回	
	7月中下旬(株元散布)	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日/3回	
カメムシ類	発生時	アクセルフロアブル	200倍	7日/3回	
		モスピラン顆粒水溶剤	400倍	14日/3回	
カメムシ類	発生時	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日/3回	
		ロディー乳剤	2,000倍	7日/4回	

### ●除草剤

薬 剤 名	薬量(10a当)	液量(10a当)	希釈倍数	使用基準
ゾーパ	300g	300ℓ	1,000倍	60日/1回
ブリグロックスL	1,000ml	150ℓ	150倍	前日/5回
バスタ液剤	500ml	100ℓ	200倍	21日/3回
ラウンドアップマックスロード	500ml	100ℓ	200倍	7日/5回
タッチダウンIQ	500ml	100ℓ	200倍	5日/3回

※ラウンドアップマックスロードとタッチダウンIQ・草枯らL・M・C・サンパー・ロン・グロ・エクスなどは同成分(グリホサート)を含むので使用回数は合わせて5回までとする。

### ●農薬散布の前後関係



農薬は注意書きをよく読んで、安全使用・危害防止に努めましょう。 農薬・肥料等生産資材は内容明確で安心・安全な信頼できるJAを御利用下さい

### ●対象別防除(殺菌剤)

対 象	時 期	薬 剤 及 び 濃 度	使 用 基 準		備 考	
			みかん	かんきつ		
貯 蔵 病 害	収穫前	ベンレート水和剤	4,000倍	前日/4回	90日/2回	ペフラン液剤を石灰硫黄合剤、水和剤と混用する場合は先にペフラン液剤を散布し必ずかき混ぜる。他剤とペフラン液剤を混用する場合は他剤散布後ペフラン液剤を加用する。
		トップジンM水和剤	2,000倍	前日/5回		
		ペフラン液剤25	2,000倍	前日/3回	90日/2回	
かいはよう病	発芽前	ICボルドー66D	40倍	-/-		
	新梢伸長期		80倍			
	自己剪定後(5月下旬頃)		60倍			
	梅雨期(6月下旬まで)		80倍			
そうか病	発芽直後 (4月上旬)	コサイド3000 加用 クレフノン	2,000倍 200倍	生育期/-	-/-	
	発生時	デランフロアブル	1,000倍	30日/3回		マシン油乳剤とは開花期以降の場合1ヶ月間隔を開ける。6月以降の夏期高温時には葉害の恐れがあるので、6月以降の散布は控える。
灰色かび病 そうか病	満開期～落弁期	ベルコートフロアブル 灰色かび病 そうか病	2,000倍 1,000倍	前日/3回	前日/2回	
		ナディーボフロアブル	1,500倍	前日/3回		
かんがい用水の消毒	かん水時	ケミクロンG	100,000倍	-/-		農業用資材・農業用水浄化剤
褐色腐敗病	発生前	ランマンフロアブル	2,000倍	前日/3回		
		レーバフロアブル	2,000倍	前日/3回		

### ●植物調整剤

品 種	目 的	時 期	薬 剤 及 び 濃 度	使 用 基 準		年 総 使 用 回 数
				みかん	かんきつ	
温州みかん	全摘果	満開10～20日後	ターム水溶剤	500～1,000倍	1回	4回以内
	間引き摘果	満開20～40日後		1,000～1,500倍		
	全摘果	満開10～20日後		1,000～2,000倍※1	1回	
	間引き摘果	満開20～50日後		1,000～2,000倍		
	熟期促進	(1回目) 満開50～90日後 (2回目) 満開70～110日後	フィガロン乳剤	3,000倍	14日/2回	4回以内 (1,000倍希釈散布 は2回以内)
	浮皮軽減	望月期(着色初期)と その2週間後			7日/2回	
浮皮軽減 (中生、晩生)	8月下旬～9月中旬 (着色遅延に注意)	ジベレリン協和液剤	1～5ppm (5,000～1,000倍)	45日/1回		3回以内
		加用 ジャスモメート液剤	2,000倍			
かんきつ	へた落ち防止	収穫開始予定日の 20～10日前	マデックEW	2,000倍～ 3,000倍	1回	1回
	後期落果防止	着色期～ 収穫20日前				
	花芽抑制による 樹勢の維持	収穫後～ 収穫約1ヶ月後※2	ジベレリン協和液剤	25～50ppm (200～100倍)	1回	1回※3
		収穫後～3月※2	ジベレリン協和液剤	2.5ppm (2,000倍)	1回	1回※3
			マシン油乳剤(97%)60～80倍に加用			-/-

※1 フィガロン乳剤を1,000～2,000倍で散布する場合は、エスレル10の2,000～8,000倍と混合する。

※2 温州みかんは、11月～1月(但し、収穫後)

※3 温州みかん、不知火、はるみは3回以内

※フィガロン乳剤は樹勢の低下した樹への散布は控える。 ※ターム水溶剤は落葉および浮皮発生事例あり。

※ジベレリン協和液剤の浮皮軽減目的の散布は着色遅延をとまなうため出荷時期を考慮して使用する。

### ●薬剤希釈倍数表

希 釈 倍 数	40	45	60	80	100	150	200	300	400	500	600	750	800	1,000	1,500	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000
水100ℓ 当り薬量(ml)	2,500	2,222	1,666	1,250	1,000	666	500	333	250	200	166	133	125	100	66	50	33	25	20	16

※登録のない薬剤は絶対に使用しないこと。

※隣接地に薬剤が飛散しないように注意してください。

※この表に掲載している薬剤は、柑橘類へ使用できる農薬の中から特にJAが指導している農薬です。この中から使用するようお薦めします。

※使用基準の左の数字は収穫前日数、右の数字は使用回数です。(―は未設定、×は登録なし)

※自分が生産した農作物に、いつ、どんな農薬を使用したか、いつでも誰にでも公開できるように使用する度に記録しておきましょう。

☆農薬の残液が河川等に流出しないように特に注意してください